

主演／菅田将暉×ヤン・イクチュン

原作／寺山修司

あゝ、荒野

スペースアストロ〔弘前中三8階〕

harappa 映画館 #29

12月8日〔土〕#29

12時30分 前篇

15時40分 後篇

※上映終了後、シネマトーカ

◎チケット

1回券 ※前篇・後篇ともにチケットが必要です

前売

千
円

当日

千二百円
五百円

◎チケット取扱

弘前中三、弘前大学生協

まちなか情報センター

コトリカフエ（弘前市立百石町展示館内）

●主催・問合／harappa

電話 0172・31・0195

●平成三〇年度弘前市市民参加型
まちづくり1%システム活用事業



あゝ、荒野



(C) 2017 『あゝ、荒野』 フィルムパートナーズ

前篇
157分

後篇
147分

制作・配給：スターサンズ / 製作年：2017 / R15+
監督：岸善幸 / 脚本：港岳彦・岸善幸 / 原作：寺山修司

— 荒野はどこにある

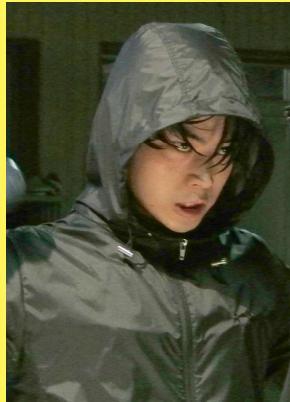
あなたは、17年前に閉館した「弘前マリオン劇場」をご存じですか。単館アート系の映画をメインに上映していた伝説の映画館の不在を埋める役割を、私たちは微力ながら果たしてきたと自負していますが、第29回 harappa 映画館では、2017年の日本映画の話題作『あゝ、荒野』前・後篇を一挙上映します。

弘前市に生まれた寺山修司の同名の処女長編小説を原作とした本作品は、旧淀橋浄水場跡地が新宿副都心の高層ビル群になる前の1965年の新宿から、2度目の東京オリンピックが終わり、東日本大震災から10年経った2021年の新宿に舞台を移して、新宿新次とバリカン健二という2人のボクサーの青春を描き出します。原作でスケッチされた人物像に映画は明確な輪郭を与えながら、さまざまな「荒野」の存在を露わにします。

新次を演じるのは、日本映画若手俳優のトップランナーである菅田将暉。健二には韓国の実力派俳優ヤン・イクチュンが扮します。2人のともに暴力的な存在感がもたらす、リングの上で男と男が対峙する圧巻のシーンは見逃せません。

映画終了後には、映画と寺山修司をテーマにしたシネマトークも開催します。

菅田将暉



(C) 2017 『あゝ、荒野』 フィルムパートナーズ

— 僕を見てくれ！

1993年、大阪府出身。「仮面ライダーW」(EX)でデビュー。『共喰い』で日本アカデミー賞新人俳優賞に輝く。近年の主な出演作は『そこのみにて光輝く』、『明鳥』、『暗殺教室』シリーズ、『二重生活』、『何者』、『デスノート Light up the NEW world』、『帝一の國』、『銀魂』など。『セトウツミ』、『溺れるナイフ』で第26回日本映画プロフェッショナル大賞の主演男優賞を受賞。

ヤン・イクチュン



(C) 2017 『あゝ、荒野』 フィルムパートナーズ

— 僕はここにいる！

1975年、大韓民国出身。大学と演技学校で演技を学び俳優としての活動をスタート。2009年に監督・主演のほか製作、脚本、編集も自らこなした『息もできない』で長編映画監督デビューを果たす。同作は国内外の映画祭で数々の賞に輝き、日本でもキネマ旬報ベスト・テンの外国映画第1位と外国映画監督賞に選ばれた。日本映画界との関わりも深く、ヤン・ヨンヒ、西川美和、宮藤官九郎といった監督からラブコールを受け各作品に出演。

寺山修司



(C) 2017 『あゝ、荒野』 フィルムパートナーズ

1935年、青森県弘前市出身。1983年没。歌人、劇作家（演劇実験室「天井桟敷」主宰）、詩人、歌人、映画監督、脚本家、作詞家、評論家。デビュー作『われに五月を』(1957)発表以降、マルチに活動し膨大な量の作品を生み出している。映画監督としては『書を捨てよ町へ出よう』(1971)・『田園に死す』(1974)・『ボクサー』(1977)などの話題作を発表。唯一の長編小説が、『あゝ、荒野』(1966)。

◎チケット予約

harappa ウェブサイトの専用フォームからお申込みいただけます。または E-mail にて件名を「harappa 映画館」とし、お名前、電話番号、メールアドレス、希望枚数を記載の上、ご予約ください。

URL <http://harappa-h.org>
E-mail. post@harappa-h.org

◎車でお越しのみなさま

中三徒町駐車場をご利用の際は、弘前中三店内でお買上げ金額1円以上で、3時間サービス、10,000円以上で、中三営業時間内サービスとなります。※チケットはサービス適応外となりますので、ご了承ください。